

# エントリー事業所紹介

## 第1弾 グループホームやすらぎのさと

ファイナリスト以外にも、素晴らしい事業所がたくさんあるんです  
介護甲子園を通じ、多くの事業所と繋がったこの縁。まだまだ紹介しきれない事業所にスポットを当て、介護の魅力を広げるための新企画です。



私が取材に行きました!

### 介護のイメージが覆る施設

介護甲子園では、エントリーシートから予選を突破した事業所がビデオ審査を経て、そこから上位5事業所にまで絞られ、本番大会を迎えます。

第六回介護甲子園は介護甲子園そのものの認知度上昇にとまない、過去最高の倍率160倍、史上最多の4812事業所にエントリーいただきました。年々エントリー数が増える反面、素晴らしい事業所の取り組みを紹介できているのがまだまだほんの一部ではない状況でもあります。

### 施設ではなく、家であること。

そこで、決勝大会には惜しくも進めなかったけれども、一次予選を突破した事業所にスポットを当て、その魅力について迫ってきました。

——今回訪問してまず初めの驚きは、入居者の皆様から歓迎のご挨拶をいただいたことです。こんなにもきちんと迎えていただくことも珍しいと思っただけですが、いつもこうだったお出迎えをしているのでしょうか。

私たちはまず入居者様とのご挨拶から行っています。入居者様にとっては自分たちの家。初めての人が突然来たのも当然です。なので、当たり前のように挨拶からまずはきちんと行います。一旦お客様をお迎えしてご挨拶を済ませてから、事業所に上がっていただくようにしています。きっかけは一人の入居者様が来訪者に対し興奮してしまうのをどうすれば改善できるか、というところからでしたが、今ではこの取り組みもあつてか、落ち着いてお出迎えしていただけるようになりました。やすらぎのさととの理念が「やさしく、素敵な笑顔で接し、その人らしい暮らしを支え、気持ちの通う、やすらぎのさと」であるので、その理念に沿って動いています。実はこの理念、当初はスタッフだけで毎日唱和していましたが、今では



▲事務長 中野 幸次さん | 理事長 片木谷 真弓さん | フロアリーダー 柿本 優希さん

入居者様も一緒に唱和してくださるようになりました。振り返ると、入居者様がやすらぎのさとを育ててくれていると考えます。

### 『尊厳のヒヤリ』

——利用者と接する中で、常に心掛けている・重きを置いているところはどんなところでしょうか。

**中野** 『尊厳』です。この言葉はスタッフにも大切にするように伝えていきます。例えば、もしターミナルで看取りを行う場合、寝ている布団にシワが出来

ているのならキッチリ直す。こういった些細なことも尊厳を守ることであると考えています。それから、ヒヤリハットという言葉がありますが、ヒヤリに関しては『尊厳の欠如に対するヒヤリ』もある、ということとスタッフにはよく話しています。例えば、洋服が汚れたまま過ごしてしまったこと、それも『尊厳のヒヤリ』だよ、といったように、尊厳という言葉の大切さ、守ることの意味を伝えるようにしています。気付いたヒヤリをまとめて貼っておく「気づきの木」というのがあるの

ですが、ヒヤリの数だけ葉っぱは色をつけていきます。また、いつでもスタッフが見られるよう、1ヶ月分ファイリングして壁に掛けています。管理者だけではなく現場のスタッフほとんどがヒヤリの報告を出してくれていますので、月100件くらいにのぼることもあります。とはいえ継続は難しいもので、ヒヤリの報告が50件などに減ってしまったら、なぜこんなに少ないのかをスタッフで話し合ってもらいます。そうするとまた次から増えていきます。私たちは入居者様の笑顔を守らなければならぬので、継続を諦めるという選択肢はないんです。

——様々な取り組みが、介護甲子園でも支持される理由となつていのでしょうか。最後に、介護甲子園へチャレンジする想いをお聞かせください。

**片木谷** 第三回大会のときに、介護甲子園のチラシが机の上にたまたま置かれていて「自分たちの介護をいろいろな人に知ってもらおうきっかけになる」と思い、エントリーしました。毎年エントリーシートを提出する際は、『もつと何かあるはず』と、何度も書き直しています。

——ことへの信念は、やすらぎのさとならではの魅力でしょうか。認知症のグループホームというと、一般的には大変そうないメージを持たれがちですが、こんなに穏やかな施設もあるということをもっと多くの方々に知っていただきたいと強く思います。現実とメディアとのギャップの中で、見てもらいたい施設の一つに出会えたと思える場所。この出会いも、介護甲子園があつてこそだと感じます。



取材で訪問した理事たちに用意してくれた和菓子。そのおもてなしの心に感謝します。▲

「気づきの木」というのがあるの。私たちはまず入居者様とのご挨拶から行っています。入居者様にとっては自分たちの家。初めての人が突然来たのも当然です。なので、当たり前のように挨拶からまずはきちんと行います。一旦お客様をお迎えしてご挨拶を済ませてから、事業所に上がっていただくようにしています。きっかけは一人の入居者様が来訪者に対し興奮してしまうのをどうすれば改善できるか、というところからでしたが、今ではこの取り組みもあつてか、落ち着いてお出迎えしていただけるようになりました。やすらぎのさととの理念が「やさしく、素敵な笑顔で接し、その人らしい暮らしを支え、気持ちの通う、やすらぎのさと」であるので、その理念に沿って動いています。実はこの理念、当初はスタッフだけで毎日唱和していましたが、今では

で。みんなアイデアを出し合いながら、やっつけていこうとしているところなんです。一般論で収めずに、その人中心で考えていったときに、いろいろ課題が見えてくるんです。

訪問してみて改めて感じる、施設の良さ。職員が一体となり、利用者のためにできることを全員で考え、実行し、継続すると思います。



▲イベント部長/田井 大介(写真:左)



【施設情報】  
社会福祉法人泉佐野たんぼほの会  
グループホームやすらぎのさと  
〒598-0036  
大阪府泉佐野市南岡本60番地  
TEL:072-465-1158  
FAX:072-465-1311